



# CAGLIERO 11

カリエロ



187 2024年 7月

## サレジオ会宣教ニュース

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



### 友人の皆さん、

医師でもある一人の司祭が私に話してくれました、医者第一の務めは病気を治すことではなく、思いやりをもって世話することだと。医者は、治療の可能性があるかぎりにおいて治療できるにすぎない。他方、思いやりをかけることは、私たち皆にできることです。私たちのほとんどは、健康であろうと、病気であろうと、思いやりを必要としています。

私は、危険にさらされた若者たちのもとに派遣されたときのことを思い出します。若者たちとの関わりに注いだ愛と関心は、私たちが提供する施設やサービス以上に彼らの変容をもたらしたのです。

親愛なる友人の皆さん、もっと思いやり深い人間になりましょう。一人ずつに、一日一人に思いやりの心を向けて。

同時に、自分自身も大切にしてほしいと思います。自分を大切にできるとき、はじめて人のことも大切にできます。健全な自己愛は重要で、必要です。イエスも、「愛する子」という言葉を神から受けたのです。

私たちが、神に愛されていることをいつも忘れませんように。

*Bro. R. Gallo, SDB*

ローマ本部養成部門メンバー  
レイモンド・カリョ修士, SDB

## 「使徒的宣教師」 神の僕 コスタンティーノ・ヴェンドラメ



1924年3月15日、コスタンティーノ・ヴェンドラメ助祭は、ミラノの聖アンブロジオ大司教区立大神学校聖堂で、ミラノのジョヴァンニ・マウリ補佐司教により、司祭に叙階されました。

母エレナ・フィオリへの神の僕の手紙には、**神の栄光のため、使徒職のための熱情**というテーマが強く浮かび上がります：「それからお母さんは別のときに、このあなたの息子をキリスト者の助け聖マリアにゆだねたと言われましたね；あなたの息子はまさにマリアのみ手の中にありますよ。自分の上にその特別な愛があるのを感じています、そして毎日、それに手で触れています。マリアが優しさに満ちたまなざしで包んでくださるのを感じます。それは母の愛以上のものです；マリアご自身が、あらゆることにおいて私を導いておられるのを感じます。そのためいつも幸せで落ち着いています、自分の周りで起こることはすべて、自分のより大きな善益のために起こるのだと確信しているのです。お母さんも、そう確信しておられますように。……」（1923年5月19日付の手紙）

新米司祭のコスタンティーノ神父は、1924年10月5日、ヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂で宣教の十字架を受けました。11月30日には、インドのアッサム地方に向けて出発しました。そこはインド北東部、チベットの南に位置し、中国国境に接する地方で、そこで**カーシ族、ジャインティア族の間で働くため**でした。村々を訪れ、険しく体力を消耗させる山道をたどって“辺縁の地”まで赴き、民族や宗教にかかわらず家族、子どもたちと出会い、イエスとイエスの福音を知らせるためサレジオのオラトリオを開設する - それがコスタンティーノ神父のミッションでした。1957年1月30日にディブルガールで生涯を終えるまで、神の栄光と靈魂の救いのため、全面的な自己贈与をもって生きたミッションでした。コスタンティーノ神父が導いた**改宗者と受洗者の数**が伝説になるほどおびただしかっただけではありません。その類まれな働きの実りは、今日に至るまで私たちを驚嘆させます。

インドに向けて発つときにコスタンティーノ神父が書きとめた言葉は、意味深く響きます：「愛するキリスト者の助けとイエスのみ心のまなざしのもと、この言葉を書く。キリスト者の助けとイエスのみ心にすべてをゆだね、すべての希望を置く。なぜならキリスト者の助けとイエスのみ心は、私が受けた唯一の財産、わが大いなる富だから。私は貧しさのうちに生まれ、貧しさのうちに成長した。しかしイエスへの愛は、さらに大いなる手と心の厳しい貧しさへ私を導いた。誓願によって、聖フランシスコ・サレジオ修道会において誓願を立てることによって、すべてを、あますところなくすべてを棄て、**全面的に神のもの、神だけのものとなるために。**」

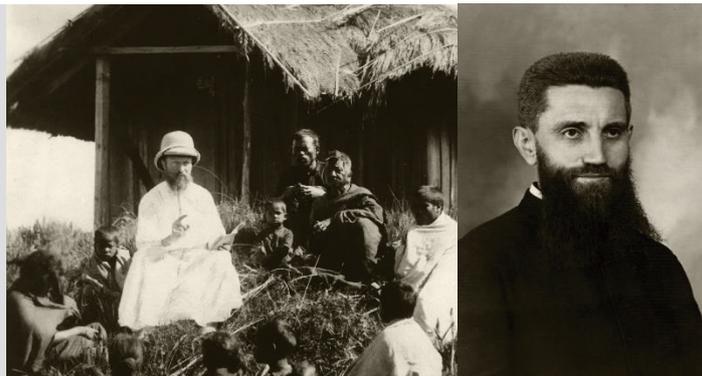
■ 列福列聖申請人

ピエルルイジ・カメローニ神父, SDB

### 振り返りと 分かち合いのために

■ 置かれた場で使徒的宣教師になるには、どうすればよいだろうか？

■ 私が受け継いだまことの財産、富とは何だろうか？



# 都市への移住者を支援する フィジーのサレジオ会



タイサリ神父様、皆さんが仕えるフィジーの人々はどのような状況にあるのですか？

まず、私たちは、スヴァ市の境界の外、ナシヌ地区にいます。急激に人口が増えている郊外の地区です。ここに住んでいる人のほとんどは、ほかの島や農村部から来た都市への移住者です。移住の理由は明らかです – 教育、仕事、より良い生活条件を求めたためです。残念ながら、その多くは不法占拠者になっています。土地を買ってまともな家を建てるお金がないからです。生活は貧しく、不健康な環境に置かれています。そのため私たちが働いている小教区は労働者階級から成り、人々の収入は低く、その中には仕事のない若者も多くの割合でいます。またインド、ラビ島、ロツマ島などの出身者の子孫から成る、多民族の共同体も目立っています。

皆さんの使徒職で、病気の人に目を向け世話する機会、そのような働きは可能ですか？

実際には、病気の人皆に支援、特に経済的支援を提供することはできません。でも病気の人に秘跡を授け、毎週ご聖体をお運びしています。

フィジーのサレジオ会、皆さんにとって、最も必要なものは何ですか？

正直に言えば、私たちの最初の教会を建設するために経済的支援が必要です。私たちの小教区は新しく、2017年に設立されたばかりです。そのときから、最初の教会を建てるために資金集めを行っています。土台を据えるまで8年かかりました – このことから、小教区の信徒、私たちだけでは建設をまかなえないことは明らかです。そして私たちサレジオ会は教会共同体の皆さん、特に収入の少ない家庭に、これ以上負担をかけたくありません。それでも皆は、自分たちの教会を建てたいと強く願っています。もう一つのことは、多くの家族が不法占拠者で、トイレやシャワーなどの衛生設備がありません。私たちは人々を助けたいと願っているのですが、その資金がないのです。



私はサモア出身で、フィジーのサレジオ会宣教地で働いています。神学生としての勉強の全課程を、フィジーのスヴァの太平洋神学校で修めました。スヴァの新しい小教区の最初の主任司祭であったミカ・レイルア神父に代わり、新たに主任司祭に着任しました。

タイサリ・ケレコリオ・レウルアイ神父, SDB



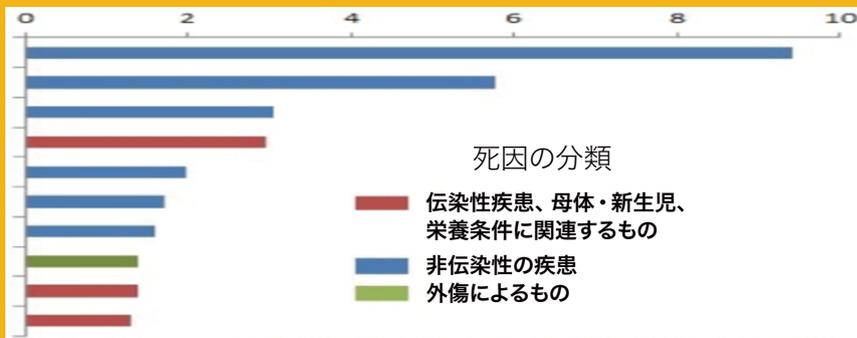
## 最も多い世界の死因 1から10位まで

フォーラム

- 虚血性心疾患
- 脳卒中
- 慢性閉塞性肺疾患
- 下部気道感染症
- アルツハイマー病、その他の認知症
- 気管、気管支、肺の癌
- 糖尿病
- 交通事故
- 下痢性疾患
- 結核

出典: Global Health Estimates 2016. Death by Cause, Age, Sex, by Country and by Region. Geneva, World Health Organization, 2018

死者数(100万単位)



## 7月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

### 病気をわずらう人々の司牧

フィジー諸島のサレジオ会の小教区で、病気の人々のために、共感に満ちた司牧が行われますように。

病者の塗油が、この秘跡を受ける人と愛する人々を、主の力をもって力づけますように、祈りましょう。秘跡が皆にとってますます、いつくしみ深い共感と希望の目に見えるしるしとなりますように。

| 教皇フランシスコの祈りの意向 |

フィジーの  
ために

